

はじめに

国においては、小・中学校におけるLD（学習障害）やADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒について、ここ数年大きく取り上げられるようになって参りました。

特に、21世紀の幕開けである平成13年1月には「21世紀の特殊教育の在り方について」の最終報告をとりまとめ、相談体制や就学基準、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応など、我が国の特別支援教育の方向性を示しました。これを受けて、平成15年3月には「今後の特別支援教育の在り方について」の最終報告が出され、『特別支援教育は従来の障害児教育の対象だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて必要な支援を行う』という方向性が示されました。

一方、閣議決定された障害者基本計画を受けて、平成16年1月には「小・中学校におけるLD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン（試案）」が出されました。

教育研究所では、このような国の急激な教育改革の動きに合わせてLD・ADHD・高機能自閉症について、県民対象の開放講座を開催したり、教育相談を実施したり、先生方を対象にした研修会を実施し理解・啓発に努めて参りました。また、並行して、LD・ADHDについて、大学の先生や現場の小・中学校の先生、教育委員会の指導主事の協力を得て、プロジェクトチームを立ちあげ、教育セミナーでの発表や理解・啓発ガイドブックの発行に努めて参りました。

今回のガイドブックは、社会性・コミュニケーション・こだわりといった面で特徴がある高機能自閉症（アスペルガー症候群）について取り上げました。診断というより理解と指導に重点をおき、できるだけ分かりやすく、読みやすいレイアウトを心がけました。後半では、開放講座において大変好評をいただいた県立医科大学の飯田順三先生のご講演をもとに再構成いたしました。

最後になりましたが、本研究を進めるに当たりご協力いただいた先生方並びに、ご指導、ご助言いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

平成16年3月

奈良県立教育研究所

所長事務取扱 矢和多 忠一